



10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方 (著) 大空小学校初代校長 木村泰子 より引用

10年後の社会を生き抜くために必要な4つの力とは④

「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」

「自分を表現する力」「チャレンジする力」

チャレンジしないのは「失敗したら叱られる」経験があるから

なぜ今の子どもたちや若者は失敗を恐れ、チャレンジしないかと言うと、失敗したら叱られる、失敗したら困るという経験値を持っているから。だから、失敗は子どもにとってピンチになってしまうのです。大人ってずるいんです。「失敗してもいいよ」と口では言いながら、本当に失敗したら、怒ったり、怒らないまでもがっかりする。その大人を子どもは全部見抜いています。どんな子も、です。見抜いていても口には出さないだけです。

たとえば、失敗して大人にガツンと怒られたり説教されたりするでしょう。それで「分かったの？」って聞かれたら、「うん」と答える。黙って素直に聞いていれば早く終わるからです。失敗を恐れるとどうなるかと言うと当然、失敗しないようにします。失敗しない方法はただひとつ、「行動をしないことです」。行動すれば、矢が刺さる。何か言われる。でも行動しなければ、誰からも何も言われぬし、憎まれもしない。自分を守ることができるんです。だから、自分と言う殻に閉じこもって社会に出ていく子が増えてしまうんです。

社会に出ていろいろなことにぶつかったとしても、それまでに「失敗したらやり直せばいい」「ピンチはチャンス」「失敗は宝物だよ」という経験が体中に染み込んでいたら、心が折れることもないはず。失敗が挫折につながったり、二度と立ち直れなくなってしまうことなく、失敗したら「どうやり直そうかな」「やり直せばいいだけだよ」と思えるように。この経験を、この力を子どものうちに存分につけたいですね。

子どもが失敗したとき、手伝うのは我慢

子どもが失敗したときに大人がかける言葉はただひとつ。「大丈夫」これだけです。失敗しても怒らない。逆に失敗した子どもを怒っていたら、失敗したら怒られるから失敗しないようにする。」つまり、自分の殻に閉じこもってチャレンジをしなくなります。「大丈夫？」と声はかけるけど、大人は一切手伝わぬ。大人が覚悟して我慢する。

大人は勝手なものです。今まで子どもが失敗したら怒る。あるいは先回りして失敗しないようにお膳立てしていたくせに、「これでは育たない」と気づいたら、急に「何にでもチャレンジしてみたら？」などと言う。「このままだと失敗しそうだ」というとき、この本に書いてあることを実践して、我慢して我慢して、「大丈夫？」と急に態度を変えた言葉かけをする。それで子どもに「うるさいなあ！」なんて言われようものなら、「私がこれだけ心配しているのに、なに、その言い方は！ ありがとうぐらい言えないの？」などと勝手にキってしまう…。そしたら、それで終わりです。

親子でもこれまで築いてきた関係性があります。大人が変わっても、瞬時に関係性まで変わるには限りません。大人は覚悟を持たなければいけません。それは”相手に求めない覚悟”です。まず、大人がチャレンジして行動する。大人もチャレンジする力が必要です。大人が覚悟を持って変わったら、子どもは確実に変わる。しかし、焦らない。子どもが1分で変わるのか、半年なのか、1年、2年、場合によっては10年かかる場合もある。関わる大人の「大丈夫？」のひと言で、子どもはチャレンジする力をつけることができます。と思います。